



## 『教会はキリストの体、一人一人はその部分』

コリントの信徒への第一の手紙12章27節

日米合同教会は、特にニューヨーク市近郊に住む日本人並びに日本に関心を寄せる人々に、礼拝、交わり、学び、伝道・宣教の業を通してキリストの福音をのべ伝え、キリスト者として共に信仰を深めていくことを目的とする信仰共同体です。

## ◇牧師からのメッセージ◇

教会が他の奉仕団体と違う点は何でしょうか。それは礼拝です。どれほど活発な活動をしていようとも、いかに強い財政的基盤があろうとも、礼拝に重きを置かない教会は教会ではありません。◆私が5年前に日米合同教会に赴任した時、牧師招聘委員会から与えられた最も重要な課題は、礼拝共同体としての教会を育成することでした。それ以来私の牧師としてのモットーは、「教会は礼拝することによって存在する。丁度火が燃えることによって存在するように。」というものでした。◆礼拝とは何でしょうか。説教はその重要な要素ですが、説教だけが礼拝ではありません。一生懸命練習したピアニストやオルガニストによる奏楽、神の言葉を真摯な態度で読む司式者とそれに真剣に耳を傾ける会衆、敬虔な祈り、喜びに満ちた賛美の歌声、「主の平安があなたにありますように」と挨拶を交わし合う優しさ、これらはすべて礼拝の重要な要素です。◆以上のことを念頭に、エリザベスと私は現在まで皆さんと一緒に教会生活を過ごしてきました。今まで歌ったことのない讃美歌を紹介し、一緒に賛美しました。説教への皆さんの反応は、私を元気づけてくれました。オルガンやピアノ(相田さんに感謝します)による奏楽を大切にしました。クワイアは心をつなげて練習に励んでいました。会衆同士の挨拶も板についてきました。◆しかし、すべてが順当だったかという、そうではありません。建物修復委員会では、時にはこれが教会の委員会かといぶかるような言動が目立ちました。私は最近パウロの紛争の絶えない教会に与えた助言、即ち、悔い改め、礼節、祈りの3点を紹介し、委員会のメンバー一人一人に短く感想を述べてもらいました。一人が答えました。「自分は無関心」。45年の牧会体験の中でこれ程悲しい思いをしたことはありません。◆私はその瞬間、主日礼拝の精神や雰囲気は教会生活全体に行き渡っていないという事実を思い知らされました。そのためには、新しい牧師(できればフルタイム)のリーダーシップが必要だと痛切に感じたのです。◆軟着陸したJAUCが空に向かって飛翔するために不可欠なものは意識の転換です。具体的な例を幾つか挙げてみましょう。◆礼拝は日曜日の11時に始まり12時に終わるのではないのです。私たちの行動、言葉、態度すべてが礼拝なのです。祈りは頭を垂れ、手を合わせる時だけが祈り

ではないのです。私たちの行動、言葉、態度すべてが祈りなのです。礼拝堂で讃美歌を歌う時だけが賛美ではないのです。私たちの行動、言葉、態度すべてが賛美なのです。「キリストの平安があなたにありますように」という挨拶は、日曜日の礼拝に留まらず、理事会、役員会、委員会へと引き継がれるべきものなのです。何故なら私たち一人一人がキリストの平安を必要としているからです。◆考えてみるまでもなく、これらの目的はJAUCのみならず、世界の全ての教会が目の前に掲げ続けるべきものです。日米合同教会が将来に向けて飛翔するかどうかは、ひとえにこれらの目的とどれだけ真剣に取り組むかにかかっているといって過言ではないでしょう。◆最後に、旧約聖書の民数記の言葉を私の祈りとしてこのメッセージを締めくくりたいと思います。「願わくは、主があなたを祝福し、あなたを守られるように。主が御顔を向けてあなたを照らし、あなたに恵みを与えられるように。主が御顔をあなたに向けて、あなたに平安を賜るように」(6章24-26節)。

## ◇日曜礼拝説教より◇

■「旧い道と新しい道」 ルカ福音書7章41節—47 シモンという名のパリサイ派の学者がイエスを食事に招待します。しかし、それはイエスに好意を持ったからではなく、イエスの弱点を見つけて糾弾する魂胆があったからです。当時の人を食事に招待する時のエチケットというのは、ホストが、必ずゲストに足を洗う水を渡し、オリーブの香油でゲストの髪の毛を濡らしました。しかしこのパリサイ派の学者シモンは、イエスに水も香油も与えませんでした。◆突然そこに罪の女(娼婦)と呼ばれる女性が香油の入った壺を持って駆け込んできます。彼女は泣きながらイエスの足を涙でぬらし、香油をふりかけ、髪の毛で拭きます。それを見たシモンは憤慨しました。当時の人々の間では、不浄な者に触れた人は、その人自身が不浄になってしまうと考えていたからです。◆主イエスはこの考えを徹底的に否定されました。神は不浄な人と清らかな人というように人間を分け隔てされることは絶対なく、この罪深い女性は神にこよなく愛されている存在だからです。◆旧い道は、神は罪深い女を拒絶し、立派な学者のシモンを愛されると主張しました。一方イエスの新しい道は、人間の人間らしさは不浄かどうかではなく、どれだけ悔い改め、どれだけ愛し、愛されるかにかかっている、と主張したのです。◆ここに二つの重要なポイントがあります。一つ、それは、不浄とされる女性は、慈しみと慰めと新しく生き直す勇気が必要としており、イエスはその全てを与えたということです。イエスの彼女への、「あなたの罪は赦された。安らかに行きなさい。」という言葉はそういう意味です。◆ポイント2。それはイエスがシモンをもこよなく愛されたということです。イエスは、この女性を神の愛の領域から外れていると断じるシモンの傲慢を明らかにします。しかしそれは彼に対す

# 日米合同教会月報71巻2011年6月号

る拒絶ではなく、悔い改めを迫り、生き直すこと(神の思いに合う人間になること)が可能なのだと言つたためです。その意味で、罪の暴露は、愛の重要な側面なのです。◆イエスは、私たちの傲慢や優越感、怒り、私たちの中にあるどろどろしたものを私たちの目の前に赤裸々に掲げられ、言われます。「あなたは変わることができる。新しく生き直すことができる。そのために最善を尽くしなさい。後は私が引き受ける」。旧い道は克服され、歩むべき新しい道が私たちの前に開かれるのです。

■「わたしは良い羊飼ひ」ヨハネ福音書10章11節-15節 「良い羊飼ひは羊のために命を捨てる。」狼の群れに襲われた羊を、良い羊飼ひは自分の身体を盾にして守り通しました。「わたしは良い羊飼ひである。」とイエスは言われました。◆良い羊飼ひが守る羊とは、イエスが癒した病人や、歩けるようにした足のやなえた男、悪霊から解放した精神を病んだ女性がそれです。イエスと出会うことによって、自分は神にこよなく愛されている、誰も取って代わることのできない、宇宙で唯一の、人格的存在だという真実に目覚めた人々です。現代の言葉で言えば、羊とは不正義の被害者です。そして狼とは、イエスが力の限り愛した人々を、神に呪われた存在として軽蔑し、差別し、足蹴にした人たちのことです。具体的には、イエスの活動を妨害したパリサイ派の人たち、イエスを十字架につけようとひそかに計画を巡らした祭司長、律法学者達です。◆私たち人間は、ほとんどの場合、羊だけ、狼だけ、というのではなく、羊であり、同時に狼であるというのが本当のところだと思います。私たちは、到底承服できないアンフェアな批判を受けることがあります。その時私たちは被害者であり、羊です。しかし、その私たちも、腹立ちまぎれにその人たちに一方的でアンフェアな批判を投げかけます。その瞬間に私たちは、被害者から加害者になり、羊から狼へと逆転するのです。私たちが羊でもあり、同時に狼だということは否定できない事実です。◆良い羊飼ひであるイエスは、私たちが加害者である時、私たちの内に潜む傲慢や残酷さ、思慮の足りなさを赤裸裸に暴き出されます。このイエスの辛辣さ、厳しさを必要としているからです。私たちが羊である場合、イエスの愛は無限なる優しさという姿を取って私たちを慰め、私たちを支えてくれます。◆イエスの愛は、このように厳しさと優しさの両面を持っているのです。優しさに裏打ちされない厳しさは、陰しさになってしまいます。厳しさに裏打ちされない優しさは甘さになってしまいます。良い羊飼ひは、私たちが被害者である時も、つまり羊である時も、加害者である時も、つまり狼である時も、私たちを愛して止まないのです。

## ◇子供夏期キャンプのご案内◇

SMJ (Special Ministry to the Japanese)主催の「小中学生ディスカバリーキャンプ」が今年も7月10日から22日までシェルター島(ロングアイランド)で行なわれます。ディレクターは吉松純先生です。費用は子供1人1300ドル。詳しい情報を掲載したチラシが

教会にありますので、お子様のおられるご家庭へお渡し下さい。現在、25人の子供たちの参加を目指しています。キャンプカウンセラーは、今年は吉松先生を含めて7名が参加されます。

## ◇東日本大震災関連のニュース◇

■被災者のための献金継続中 JAUCは3月20日以来、東日本大震災の被災者のための献金を募っています。4月30日までに集まった献金1万2629ドル50セント(復活祭献金の25%含む)は、すでに取りまとめて合同メソジスト教会並びに米国改革派教会の救済局に送りました。現在も9万9千人が避難生活を送っている状態ですので、長期的な支援が必要です。このため、JAUCでは今後も継続して寄付を呼びかける予定です。5月中にも756ドル80セントが寄せられました。なお、震災による現在の被害状況は、死者1万5327人、行方不明者8343人、負傷者5277人、全壊家屋7万7174戸にも達しております。また、津波により少なくとも2つのプロテスタント教会が流失しました。

■鈴木ポール宣教師の報告 宣教団体Hi-b-aの宣教師として長年日本で高校生伝道をされて来たポール鈴木先生が5月20日夕、JAUCで小さな集会を持たれました。ポール先生は20年ほど前、JAUCの青年グループでも奉仕されていたことがあります。先生は今年シカゴにおられましたが、震災の報を受けて3月末、救援物資を積んだ車で数名の仲間と共に、南三陸や高山などの被災地へ急行されました。集会では先生は被災地の生々しいビデオ映像を見せて下さり、長期的にサポートし続けることの大切さを呼びかけられました。特に印象深かったのは、震災前には5、6人ほどしか来なかった石巻の教会の礼拝に、震災後は30人もの人々が押し寄せ、聖書のみ言葉がプログラムに印刷されていないと分かる手書きで書き写して行ったという話です。同様の例は他の教会でも見られるようで、震災によって、多くの人々の心にあった霊的な渇きが表面化したことが分かります。ポール先生は7月末には再び日本へ行かれる予定です。

## ◇建物修復関連のお知らせ◇

■会衆集会のご案内 工期1に含まれておりました工事の多くは無事終わることが出来ました。しかしながら、まだ完了していない箇所が残っているほか、市当局より最近、台所の消火システムの不備など建築法・消防法違反が指摘され、これらの箇所も早急に修理しなければならなくなりました。このため理事会は5月22日、一連の工事を終えるため新たに7万5千ドルの支出を用意する案を承認しました。会衆の皆様はこの案の承認をお願いするため、6月12日(日)午後1時半からJAUCで会衆集会を開催します。教会員の方々には詳細を説明した手紙をすでにお送りしておりますので、そちらをご覧の上、ご出席下さい。

# 日米合同教会月報71巻2011年6月号

徒が集まって学びや証しの時を持つこの会は、毎月第2月曜午後7時15分からJAUCで開かれております。

## ◇教会スケジュール◇

■**バザー** 婦人会は6月19日(日)の午後1時15分より、教会でバザーを開催します。売り上げは震災被災者への支援並びに教会の建物修理のために用いられます。販売できる衣類、家庭用品その他を集めておりますので、社交室の段ボール箱にお入れ下さい。当日の昼食の売り上げもバザー収益に加えられます。

■**春のアルファコース** 「キリスト教は初めて」という方のための入門コース「アルファ」が6月1日から始まっております。時刻は毎週水曜日の午後7時から、8月3日まで合計13セッションが予定されています。今月のトピックは「イエスの死とは？」(8日)、「確かに信じるには？」(15日)、「聖書を読むには？」(22日)、「神に祈るとは？」(29日)です。どのセッションからでも参加出来ます。詳しくは丸橋ダウンズ理加姉まで。

■**ワークショップ** 教会の将来の方向性について考える「ディスカバリー・ワークショップ」が5月21日に教会で開催され、12人ほどが参加されました。司会は吉田ジェリ姉です。冒頭に鈴木先生がデポジションをリードされ、エペソ2章14節-16節をもとに、教会、そして全てのクリスチャン生活の土台が礼拝であること、教会が宣教・祈り・礼拝によって成り立っていることを教えられました。その後参加者一同でJAUCに与えられている神様の恵みについて考え、今後教会としてなすべきことについて話し合いました。様々なアイデアが寄せられましたが、参加者各人が自分自身で何を責任持つて行うことが出来るかを考えることが大切なので、次の会までに各自熟慮しようとの結論になりました。次回のワークショップは6月26日(日)午後に行われる予定です。

■**墓参会** 5月30日のメモリアルデー墓参会は晴天に恵まれ、マウントオリベット日本人墓地では各日系団体の代表者による県下とメッセージ朗読が、多くの参列者の出席のもとに行われました。その後、約15名ほどがJAUC墓所があるサイプレスヒル墓地に移動し、鈴木有郷先生によって墓前記念式が執り行われました。今年は新たに納骨した遺骨はありません。鈴木先生ご夫妻の1日がかりのご奉仕に感謝します。

■**旧友便り** 2005年ごろJAUCのSunday Afternoon Fellowshipで熱心に奉仕して下さったカルロス・シルバ兄、りえ姉ご夫妻(大阪在住)に4月、女の子が生まれました。名前はルナちゃんです。

## ◇地域教会ネットワーク◇

■**VIP集会** 5月のVIP集会は9日(月)に開かれ、フィラデルフィア教会の柴川陽子姉が、クリスチャンとして日本の人々をサポートする必要、特に霊的に人々の心を支える重要性について熱く語って下さいました。6月の集会は13日(月)に予定されており、鈴木有郷先生がお話して下さいます。NY・NJ地区の日本人信

## ◇JAUCの歴史から◇

**関東大震災の時には** 大正12年(1923年)の関東大震災の際には、JAUCはどのように対応したのでしょうか。JAUCは1953年に合同するまで、3つの独立した教会に分かれておりましたが、その1つである紐育日本人教会(Japanese Christian Institute)が発行していたニュースレター『進歩(Progress)』紙の1923年・24年度版が残っておりますので、調べてみました。それによると、教会の婦人部が中心となって衣類、靴、帽子、手袋など1300点余りを集めて日本へ送付したほか、米国赤十字社から委託されて合計75点の衣服を縫っています。「赤十字社より再度二十五板大人物衣服仕立の依頼あり目下一同大車輪にて仕立中。」との文章には、活動的な婦人会の様子が伝わって来ます。この他、NY在住の日本人からは相当額の寄付金が教会に寄せられました。なお同ニュースレター12月号には、焼野原になった東京の様子を記したメンバーの手紙が掲載されています。同じ号に、牧師の清水宗次郎師が神様から頂いた信仰の尊さについてメッセージを寄せていますが、このように結ばれています。「時まさに感謝の記念日を迎えんとするにあたり、われらは与えられた生ける信仰、直接に神より給わりたる尊き霊の賜物に対して感謝の念を一層深うしたいのである。たとえ震災は家屋を破壊し、水災は物質的の全てを流し去っても、神を信じる信仰、キリストと共ならしむる信仰を奪い去る事は出来ぬのである。この信仰は全ての物に優る富であり、知識であり、能力である。これあるが故にキリスト者はキリストと共に世に勝ちし者である」。

## ◇祈りのリクエスト◇

東日本大震災の被災者の方々、並びに次の方々を祈りに覚えて下さい。ロベルト・アセベード(アセベード兄のお父様)、バーバラ・アレキサンダー師、浅井ひさよ、伊藤ゆう子、岩佐敏夫、奥田久子、小口愛(アトランタ・ウェストミンスター教会)、神塚アーサー師・リリー、神崎ヨネ、桑田ハリー、ゴーマン美智子、野間美奈子、松本二三子、向井ジョージ(ベイサイド在住)、向井ジョージ(オネオンタ)、山崎あきら(堀内姉のお兄様)、湯沢キミ諸兄姉

## スモール・グループ

スモールグループは教会員の霊的成長のための教会プログラムです(自由参加)。少人数での交わり(フェロシップ)を通して、クリスチャンとして実生活でどう生きるかなどを考え、互いに支えあい高めあうことを目的とします。時刻は変更されることがありますので、各グループの担当者または月報を確認下さい。

- |                      |          |          |
|----------------------|----------|----------|
| SG 1. 女性信徒の学び会(バイブル) | 第2、4土1時  | 園田姉宅     |
| SG 2. 日本人女性の会        | 第2火11時   | 日下部姉宅    |
| SG 3. 男性信徒の学び会(バイブル) | 第2、4日9時半 | 教会(日下部兄) |
| SG 4. 日本語での学び会       | 第2日2時    | 教会(春日姉)  |

# 日米合同教会月報71巻2011年6月号

---

SG 5. 日本語「葡萄の木」の会  
SG 6. 日本語「証しと祈りの会」  
SG 7. 英語での学びの会

第4日2時 教会(小林姉)  
毎月最終金夜7時 寒河江兄宅  
毎月第3日曜 教会(吉田夫妻)